

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	キャリアガイダンス (688)				教科区分	一般教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	大内 香那子				実務経験内容	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
<p>仕事をしていく上で必要となるビジネススキル向上を目的とするとともに、就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識および、ふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
授業形態	演習	教室	ライブ配信	補助教員	各担任	
<p>就職活動がスムーズに進めることができるよう、様々な準備を行う。社会人として求められる最低限のコミュニケーション能力と、社会人として持っているべき常識およびふさわしい行動をとれる能力を身につけていく。</p>						
教科書 教材	仕事力を身に付ける20のステップ					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【前期】						
1回	サンクスドリルの意義と使い方					
2～3回	就活とコミュニケーションのつながりを理解する					
4～6回	意見をつくる力					
7～9回	聞く力・話す力					
10～12回	自己理解					
13回～15回	仕事理解					
16回	サンクスドリル基礎学力テスト					
【後期】						
1～3回	自己PR作成					
4～6回	先輩トークセッション					
7～9回	就活成功3ヶ条					
10～12回	選考基礎（ビジネスマナー、敬語等）、書類選考（ガクチカ作成体験）					
13回～15回	面接（個人・グループディスカッション）					
16回	サンクスドリル基礎学力テスト					

評価コード 11

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、筆記試験を60点、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点とする。</li> <li>・通常の授業における演習をもって定期試験に代える場合は、その旨を事前に周知のうえで授業での演習をその都度評価する。</li> <li>・成績の評定は、定期試験開始前日までにそれらの平均とする。</li> </ul>
------	--

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	演出論 (910)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	梅村 泰成				実務経験内容	
					[梅村] 放送業界で制作を経験してきた。培った演出の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
基本的には映像における演出を学ぶが、それは入り口にすぎず、様々なメディア・事象からの演出技法を学ぶ。演出とは極めて抽象的なものであり、具体的な方法の提示が難しい。その特性も深め、小さな演出の積み重ねが作品を作り上げていく方法を教えていきたい。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。場合に応じてPCをスクリーンに映し、演出例を提示していく。また、グループワークなど能動的に授業に参加できる仕組みを展開していく。						
教科書教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1～2回 演出導入						
2～4回 5W2Hとは						
5～6回 報連相について						
7～8回 現場におけるコミュニケーションについて						
9～10回 映画における演出方法						
11～12回 作品の権利について						
13～14回 シチュエーションごとの演出						
15～16回 前期まとめ						
【1年次後期】						
17～18回 前期の復習と後期の説明						
19～20回 CMの演出方法						
21～22回 PV, MV, VPなどの違い						
23～24回 報道番組の演出方法						
25～26回 ドキュメンタリー番組の演出方法						
27～28回 バラエティ番組の演出方法						
29～30回 ドラマの演出方法						
31～32回 後期まとめ						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	映像論 (567)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	富田 正樹				実務経験内容	
					[富田] 映像業界で制作技術を経験してきた。培った映像関連の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像という身近な物を「商業」として成立させるために必要な知識と技術を例題を用いながら解説していく。今まで興味のなかったコンテンツにも興味を向けられるようになり、かつ既存コンテンツの制作技術の方法を理解すること。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
授業は講義形式で行う。板書を行い、学生に考えさせながら進めていく。必要な時に映像をプロジェクターを使用しスクリーンに映して講義することもある。						
教科書教材	新版・プロのためのビデオ取材 一般社団法人日本映画テレビ技術協会 中山秀一 著 (授業内で適宜使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～2回：番組とは（日本の放送法について）						
3～4回：番組制作の流れ						
5～6回：番組制作の仕事とスタッフの役割						
7～8回：カメラワークの基礎						
9～10回：カメラ技術1（カメラの取扱い）						
11～12回：カメラ技術2（操作方法）						
13～14回：カメラ技術3（特殊撮影）						
15～16回：前期まとめ						
【1年次後期】						
17～18回：映像スイッチング						
19～20回：音声						
21～22回：テレビ照明						
23～24回：ENGの仕組み						
25～26回：放送技術（無線伝送等）						
27～28回：映像とは（コンテンツの将来）						
29～30回：最新映像技術について						
31～32回：まとめ						
評価コード	3					

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	音響論 (911)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
					[曾我部] 音響業界で得た経験を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
イベント・映像制作の音響的演出を紹介し興味を持たせながら、様々な音響機器の種類や機能についての基礎知識を講義する。さらに收音方法や運用などの音響・音声業務に関わる技術を学ぶ。また、即戦力となるために音響用語、音響機材の用途・種類（名称や型番）、内部の構造、その他付属機器の知識を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
機材や図面や配置図などをスクリーンに映しながら、解説していく。必要な時には、学生にプリントを配布し、課題を行って最後に解説を行う。前後期末にノートチェックを行う。						
教科書	サウンドバイブル<The Theatrical Sound Engineer's Bible><第1版> 兼六館出版 八板賢二郎 著（毎授業で使用） プロ音響データブック<五訂版>リットーミュージック 日本音楽家協会 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1～2回 科目のガイダンス（音の3要素【音の大きさ、音の高さ、音色】、音響の仕事）						
3～4回 音響の仕事						
5～6回 音の性質（両耳効果、音速、ドップラー効果、気温による音の変化など）						
7～8回 マイクロフォン（構造的分類、指向別分類、用途的分類、代表的なもの）						
9～10回 再生装置						
11～12回 スピーカ（音の出る仕組み、キャビネット、帯域ごとに鳴らす（パッシブ、アクティブ）、仕様						
13～14回 パワーアンプ（仕様【特に消費電力】）						
15～16回 ケーブル、コネクター、その他小物（マイクスタンドなど）						
【1年次後期】						
17～18回 マイクロフォン、D I などによる收音方法						
19～22回 ミキサーの取り扱い						
23～24回 メインスピーカーの再生方法（ワンボックス、マルチアンプ）						
25～26回 モニターの原理とハウリングとその対策						
27～28回 エフェクターの種類と原理と接続方法						
29～30回 ワイヤレスマイクの仕組み						
31～32回 音響業務に伴うデジタル技術						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	照明論 (912)				教科区分	専門教育科目
					必修/選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
世の中に合わせた照明効果の需要は拡大し、大掛かりで、効率の良い照明技術が要求されるようになってきた。ここでは、照明の知識や技術を習得し、仕込み図を作成し、照明スタッフとして最低限必要な基礎を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
毎授業の最初に、前回の復習を行い理解を深める。板書を中心に言い、ノートに書かせる。機器の写真をスクリーンで見せながら講義していくこともある。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～2回 光の性質、色温度						
3～4回 カラーフィルター、レンズスポットの構造						
5～8回 灯体の種類と用途						
9～12回 設備照明の種類と用途						
13～14回 ハンガー、スタンドなどの付属品						
15～16回 照明用語						
【1年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～22回 仕込み図						
23～24回 スタジオ照明						
25～28回 DMX						
29～30回 電源ケーブルの種類						
31～32回 照明の仕込み						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験を受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	舞台論 (913)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	酒井 早穂				実務経験内容	
					[酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
舞台の形式は、演出上、客の目を楽しませる目的で大掛かりなものとなり、舞台の需要がますます多くなってきた。ここでは、即戦力となるために知識や技術を習得し、配置図を作成し、舞台業界で役立つ基礎的な内容を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
毎授業の最初に、前回の復習を行い理解を深める。板書を中心に行い、説明しながらノートに書かせる。舞台機構などの写真をスクリーンで見せながら講義していくこともある。前後期末にノートを集めて、確認する。						
教科書 教材	舞台・テレビジョン照明<基礎編> 日本照明家協会（毎授業で使用） 舞台音響技術概論 兼六館出版 半田健一 著（毎授業で使用）					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1～2回 舞台方位						
3～4回 幕の種類、用途						
5～8回 舞台機構の種類と仕組み						
9～10回 尺貫法、平台の組み方						
11～12回 大道具と小道具						
13～16回 舞台用語						
【1年次後期】						
17～18回 前期の復習						
19～20回 イントレ、トラス						
21～22回 道具の構成						
23～24回 俯瞰図						
25～26回 舞台装置の種類と用途、劇場の種類						
27～30回 安全管理						
31～32回 舞台法規						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験（100点満点）の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、F（60点未満）である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験（100点満点）の点数は、次の（1）または（2）とする。</li> <li>（1）出席停止となる疾病（医師の診断書のある者）および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者（証明書のある者）ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>（2）上述（1）以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均（1点未満については切り上げ）を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	電気論 (914)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	曾我部 進				実務経験内容	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像・音響・照明機材を操作するために必要な電気に必要な知識、計算方法を学ぶ。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
映像音響業界で扱う電源の知識や安全について、講義にて解説を行う。資料は教科書のほか、スクリーンに投影したものを利用し解説を行う。理解度の確認と知識の定着を目的に、授業内容に合わせた問題を出題・解説する。						
教科書教材	電源の基礎知識・配布資料					

## 授業計画・内容

<p><b>【1年次前期】</b>  1～2回 ガイダンス (電気と映像音響分野の関係)  3～4回 単位の接頭語、カラーコード  5～6回 直流と交流  7～8回 直流による電圧・電流・抵抗  9～10回 直流回路の計算  11～12回 電流による様々な作用  13～14回 電池  15～16回 磁気と静電気</p> <p><b>【1年次後期】</b>  17～18回 前期の復習  19～20回 交流の基礎  21～22回 交流回路の計算の基礎  23～24回 交流の基本回路  25～26回 R L Cの組合せ回路  27～29回 交流回路の電力・三相交流  30回 整流について  31～32回 電気事故の防止</p>						
--	--	--	--	--	--	--

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 (100点満点) の点数を成績の評定とする。筆記試験を80点、平常点 (出席および受講の状況) を20点の配点とする。成績の評定は、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験 (100点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。</li> <li>(1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>(2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1点未満については切り上げ) を成績の評定とする。</li> </ul>
------	--

## シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	編集論 (915)				教科区分	専門教育科目
					必修/選択	必修
担当教員	梅村 泰成				実務経験内容	
					[梅村] 放送業界で制作を経験してきた。培った編集の知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	2	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
映像編集にはさまざまな手法があるが、それを技術的な面から学んでいく。多くは教科書からポストプロダクションが何たるか、映像制作においてどのようにかかってくるかを学び、さらに編集に必要な基礎知識を学んでいく。単純に編集できるようになるのではなく、どのような技術が重なって編集技術が確立されているかを理解する。						
授業形態	講義	教室	162教室	補助教員	なし	
教科書を中心に、実際に編集技能を学んでいく。必要に応じて、動画を見せ、実際の編集技法をイメージしやすくする。						
教科書教材	ポストプロダクション技術マニュアル【第9版】 日本ポストプロダクション協会 (毎授業で使用)					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1～2回 ポストプロダクションの役割						
3～4回 映像ができるまでの流れ						
5～6回 テレビ放送の歴史						
7～8回 映像信号について						
9～10回 タイムコード						
11～12回 VTRの仕組み						
13～14回 映像特性						
15～16回 映画鑑賞						
【1年次後期】						
17～18回 前期のまとめ						
19～20回 編集の方式						
21～22回 オフライン・オンライン編集について						
21～24回 リニア・ノンリニア編集について						
25～26回 さまざまなカット割りについて						
27～28回 イマジナリーラインについて						
29～30回 音の編集について						
31～32回 まとめ						

評価コード

3

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験 (100点満点) の点数を成績の評定とする。成績の評定は、S (90～100点)、A (80～89点)、B (70～79点)、C (60～69点)、F (60点未満) である。定期試験が受験できなかった及び評定がFの場合、追試験を受験する。</li> <li>・追試験 (100点満点) の点数は、次の (1) または (2) とする。</li> <li>(1) 出席停止となる疾病 (医師の診断書のある者) および通院が証明できる病欠、公共交通機関の遅滞等による者 (証明書のある者) ならびに、公欠が認められた日時に定期試験を受験できなかった場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は、60点を超えた分の点数の10分の6に60点を加えた点数とする。</li> <li>(2) 上述 (1) 以外の場合は、60点まではその点数とし、60点を超えた場合は60点とする。</li> <li>・前期末試験および後期末試験を実施した場合、各期で確定した点数の平均 (1点未満については切り上げ) を成績の評定とする。</li> </ul>
------	---

## シラバス（授業計画書）

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	コンピュータ実習1 (917)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	梅村 泰成、森田 紗季				実務経験内容	
					[梅村] 企業等で経験して培ったコンピュータの知識・技術を生かし講義する。 [森田] 企業等で経験して培ったコンピュータの知識・技術を活かし講義する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	4	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
Word、Excel、PowerPointおよびIllustrator、Photoshopの基本操作の実習をし、今後の映像音響分野で使われる、仕込み図、企画書、プレゼン資料などが作成できるようなスキルを備えさせる。						
授業形態	実習	教室	162教室	補助教員	なし	
前回の復習を行い、次の授業に繋げていく。例題を出し、操作方法の理解を深めていく。また、課題を与え提出させる。						
教科書教材	なし					

## 授業計画・内容

●授業時間：2単位時間／回						
【1年次前期】						
1 ～ 4回 コンピュータの環境設定、基本操作の確認						
5 ～ 8回 Wordの基本操作						
9 ～ 12回 文字の入力と編集						
13 ～ 16回 文章の作成と編集						
17 ～ 20回 表作成						
21 ～ 24回 Excelの基本操作						
25 ～ 27回 数値の入力と編集						
28 ～ 30回 セルの編集・表計算						
31 ～ 32回 前期まとめ						
【1年次後期】						
33 ～ 36回 PowerPointの基本操作						
37 ～ 40回 文字の入力と編集						
41 ～ 44回 図形、写真の挿入と編集						
45 ～ 48回 アニメーションの作成						
49～ 52回 プレゼンテーションの実施						
53 ～ 56回 Photoshopの基本操作						
57 ～ 59回 写真の編集						
60 ～ 62回 写真の加工・効果						
63 ～ 64回 後期まとめ						

評価コード 13

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点（出席および受講の状況）を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>
------	---

シラバス (授業計画書)

文化教養専門課程 映像音響科

科目名	テクニカル実習 (A07)				教科区分	専門教育科目
					必修 / 選択	必修
担当教員	加藤 亜希恵、石川 麻子、酒井 早穂、森田 紗季				実務経験内容	
					[石川] イベント業界におけるシステムの構築・運用を担当。その際の知識・経験を活かして、実技面を指導する。 [酒井] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし実技面を指導する。 [森田] イベント業界で経験して培った知識・技術を活かし実技面を指導する。	
週授業時間数	1年次	2年次	3年次	4年次		
	10	-	-	-		
科目のねらい・到達目標						
ケーブル・コネクタの種類・構造や、機材 (付属機材) の種類・使用方法を学び、基礎的なシステム設置と撤去の方法を身につける。さらに作業を行う上で必要不可欠なケーブルの巻き方、舞台道具や備品の種類・安全性を考慮した設置方法を学ぶ。基礎知識を習得していくことで成長意欲を高め、自己研鑽を重ねるよう意識させる。						
授業形態	実習	教室	NKCイベントホール アートスタジオ・625教室		補助教員	なし
現場で適宜対応できる人員を目指し、段階に合わせた実技訓練を行う。基準レベルを設定の上、現場想定によるシステム構築や時間短縮をしながら、基礎レベルを向上させる。						
教科書 教材	プロ音響データブック<5訂版>、舞台テレビジョン照明<基礎編>、工具、テスター (授業内で適宜使用)					

授業計画・内容						
●授業時間：2単位時間/回						
【1年次前期】						
1 ～ 5回 実習ガイダンス						
6 ～ 10回 小規模システムのデモンストレーション						
11 ～ 20回 機材の確認①及びケーブル巻き						
21 ～ 30回 機材の確認②及びケーブル敷設方法						
31 ～ 40回 機材の取り扱い						
41 ～ 50回 舞台道具の使用方法及び簡易システム①						
51 ～ 60回 人物ライティング①及び特殊ケーブルの取り扱い						
61 ～ 70回 人物ライティング②及び簡易システム②						
71 ～ 80回 ケーブル製作①及び舞台備品の使用方法						
【1年次後期】						
81 ～ 85回 小規模システム①						
86 ～ 100回 小規模システム②及びテント設置						
101 ～ 110回 ケーブル製作②及び人物ライティング包括						
111 ～ 120回 ケーブル製作③及びシステム構成						
121 ～ 130回 中規模システム①						
131 ～ 135回 照明吊り込み①及び卓 (アナログ) の取り扱い						
136 ～ 145回 中規模システム②						
146 ～ 150回 照明吊り込み②及びシステム構築						
151 ～ 160回 照明吊り込み③及び中規模システム③						

評価コード	13					
-------	----	--	--	--	--	--

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・100点を満点とし、授業時間内における実技技能を60点とし、平常点 (出席および受講の状況) を40点の配点にする。</li> <li>・すべての実習項目について合格点に達していることとし、合格点に達しなかった者および欠席した者は、追実習願を提出し、認められた者には指定した日時に追実習を行う。</li> <li>・実習は、定期試験開始の前日までに終了させる。</li> </ul>					
------	---	--	--	--	--	--